

研究分野	資源管理	機関・部	水産総合研究所・資源管理部
研究事業名	資源回復計画推進事業(イカナゴ)		
予算区分	受託研究(青森県)		
研究実施期間	H19～H23		
担当者	高橋 進吾		
協力・分担関係	なし		

### 〈目的〉

日本の周辺水域において緊急に資源の回復が必要な魚種について、全国又は地域レベルで資源回復のための計画が策定され、その対策が総合的に実施されている。青森県では平成19年にイカナゴ資源回復計画が策定されており、その推進のために必要な調査を実施するものである。

### 〈試験研究方法〉

1. 漁獲動向調査：青森県の漁獲量と漁獲金額を調べた。
2. 稚仔分布調査：2月、3月、5月に各月1回、陸奥湾湾口周辺海域 11 調査地点において、試験船青鵬丸によるボンゴネット往復傾斜曳を行い、稚仔の分布密度を推定した。
3. 成魚分布調査：津軽海峡海域(佐井沖、大畑沖)において、6月と10月に試験船青鵬丸によるオッターロール曳きを行った。

### 〈結果の概要・要約〉

1. 漁獲動向調査：平成 21 年の漁獲量は県全体で 330 トン、陸奥湾湾口周辺漁協では 38 トンと依然として低い水準であった(図1)。
2. 稚仔分布調査：稚仔分布密度は、平均で 2.3 個体/100 m<sup>2</sup>と推定され、平成 20 年に次ぐ低い分布密度であった(図2)。
3. 成魚分布調査：6月に大畑沖水深200mで5尾(標準体長17～22cm)採捕された(表1)。10月には採捕されなかった。

### 〈主要成果の具体的なデータ〉

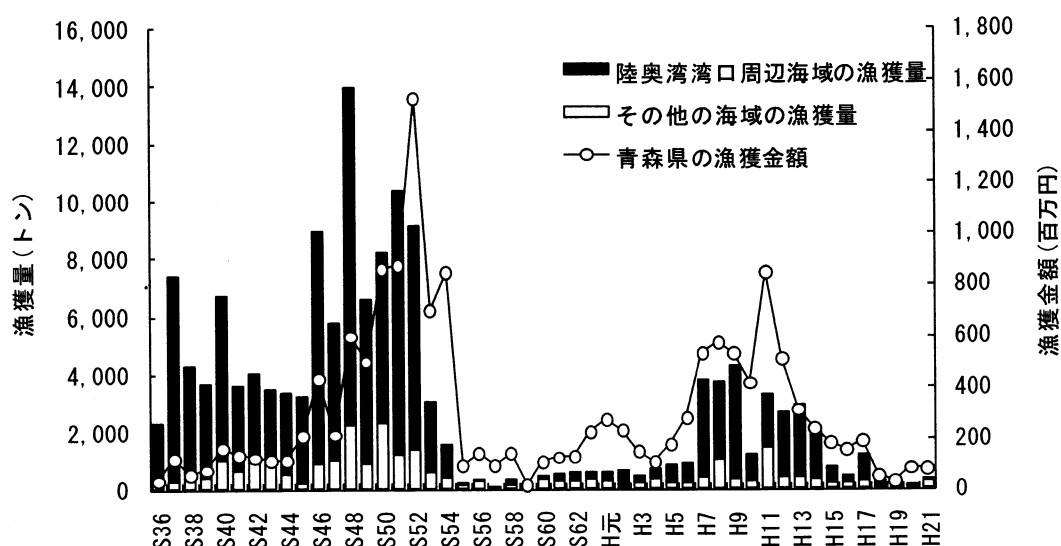


図1 イカナゴの漁獲量と漁獲金額の推

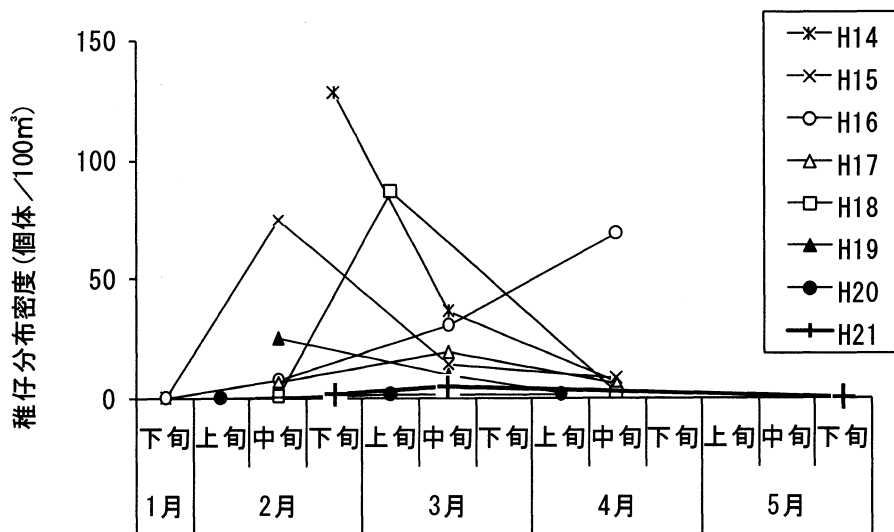


図2 イカナゴの稚仔分布密度

表1 水深別成魚採捕結果(尾)

水深 (m)	佐井沖			大畑沖		
	100m	150m	200m	100m	150m	200m
6月	0	0	0	0	0	5
10月	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	5

〈今後の問題点〉

成魚を採捕できない。  
漁獲量の予想が困難。

〈次年度の具体的計画〉

問題点を踏まえ、調査項目、調査方法を再検討の上実施する。

〈結果の発表・活用状況等〉

平成21年度イカナゴ漁業検討会で調査結果を報告。  
平成21年度第1回陸奥湾地区、太平洋地区漁業者協議会で調査結果を報告。